



# 秋期のアザミウマ類の被害対策



写真：アザミウマの被害を受けた果実

## ●秋期のアザミウマ類による被害が増加中

温暖化や作型の早期化により、これまで春先に多かったアザミウマ類による果実被害が秋にも拡大しています。

## ●薬剤抵抗性の獲得に備えた新たな防除体系の構築

現在、アザミウマ類の防除は化学薬剤によるものが主体となっています。しかし、薬剤感受性の低下が問題となっているため、化学薬剤のみに依存した防除体系では防除が困難となっています。そのため、定植時処理剤と天敵放飼を組み合わせた総合防除体系を確立しました。

## ○手順

- ①定植時（定植当日かつ定植を行う前）： 灌注剤（モベントフロアブル（500倍、50ml/株）、ベリマークSC（1000倍、50ml/株））を処理する
- ②定植1カ月後： 天敵（ククメリスカブリダニ）を株上に100頭/株放飼する

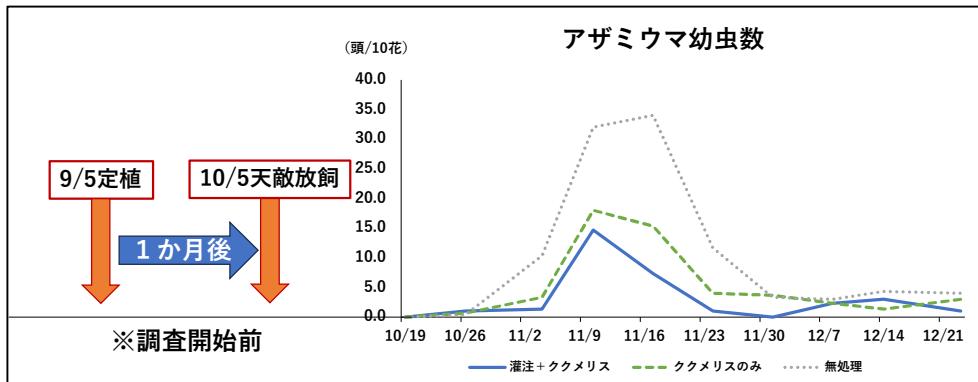


灌注剤処理の様子

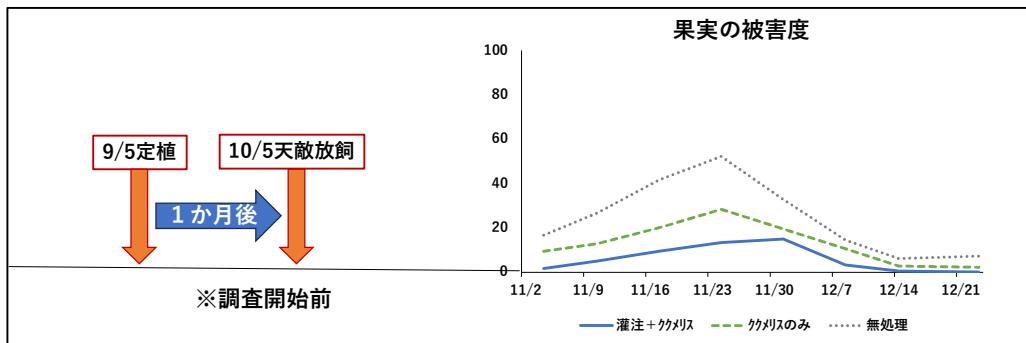


天敵（ククメリスカブリダニ）放飼の様子

### 実際の試験結果



灌注剤処理と天敵放飼を併用した区では、無処理区や天敵放飼のみの区に比べてアザミウマ類の幼虫数が少ない。



灌注剤処理と天敵放飼を併用した区では、無処理区や天敵放飼のみの区に比べてアザミウマ類による果実被害も少ない。

### ○注意点

- モベントフロアブルは、ククメリスカブリダニに対して強い影響があるため、灌注剤の処理から天敵の放飼までは1か月程度期間を空ける。  
(処理1か月後に放飼した場合は天敵に悪影響はない。)
- 灌注剤は約1か月で効果が低下し、それ以降のアザミウマ類の増加を抑えられなくなるため、灌注剤の効果低下(約1か月後)から間を空けずに天敵を放飼する必要がある。

## ○作業スケジュール

8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月
	・定植 ・灌注剤処理	・天敵(ククメリスカブリダニ) 放飼 (定植1か月後)			

- ・天敵がほ場に存在しなくなる12月までは天敵に影響の少ない薬剤を散布する。
- ・春先のアザミウマが増加してくる時期には、既に天敵はほ場に存在していないため、春期のアザミウマ類対策として天敵の追加放飼や化学薬剤による防除を行う。

## ○必要な資材など

- ・灌注剤 (モベントフロアブル※) : 50ml/株

※ハスモンヨトウ等の被害抑制のため、ベリマーク SC の併用を推奨。

- ・天敵 (ククメリスカブリダニ) : 100頭/株

※ククメリスカブリダニ剤の使用量の計算方法

例) 500頭/10ml入りのククメリスカブリダニ剤<sub>(1)</sub>を 500株定植されたハウス<sub>(2)</sub>に使用する場合

1) 定植されたいちごの株数<sub>(2)</sub>から、全体で必要なククメリスカブリダニの頭数<sub>(3)</sub>を計算する

$500 \text{ (いちごの株数)}_{(2)} \times 100 \text{ (1株当たり放飼するククメリスカブリダニの頭数)} = 50000 \text{ (頭)}_{(3)}$

2) 1)で計算した必要なククメリスカブリダニの頭数<sub>(3)</sub>を、ボトルに入っているククメリスカブ

リダニの頭数<sub>(1)</sub>で割って、ククメリスカブリダニ剤の使用量を計算する

$50000 \text{ (全体で必要なククメリスカブリダニの頭数)}_{(3)} \div 500 \text{ (10ml当たりのククメリスカブリダニの頭数)}_{(1)} \times 10 \text{ (表示されているのは 10ml当たりの頭数なので 10を掛ける)}_{(1)} = 1000 \text{ (ml)}$